

## 会 議 録

会議の名称	令和5年度 第3回所沢市市民医療センター運営委員会
開催日時	令和6年2月20日(水) 19時00分から20時00分
開催場所	保健センター 多目的ホール
出席者の氏名	赤津 拓彦、酒見 文人、石丸 由紀、塩谷 彰浩、小村 伸朗、 遠藤 里香、米川 智裕、市川 健、池田 善恵、甲田 博文、 峯岸 竜生
欠席者の氏名	下山 賢一郎、田邊 浩一郎、辻村 信正、大川 千恵子
説明者の職 ・氏名	株式会社病院システム
議題	(1) 所沢市市民医療センター経営強化プランについて (2) 所沢市市民医療センター再整備基本計画について (3) その他
会議資料	次第 席次表 資料1 所沢市市民医療センター経営強化プラン(案) 資料2-1 所沢市市民医療センター再整備基本計画(案) 資料2-2 第2回運営委員会からの主な変更点
担当部課	出席者 センター長 黒木 康富、医務部長 東 賢治、事務部長 林 誠、 総務課長 粕谷憲之、再整備推進室長 武政 直行、 総務課主査 高橋 亘、総務課主査 荒井 浩伸、 総務課主査 三瓶 丞、総務課主査 上地 愛子 電話 04-2992-1151 (市民医療センター事務部総務課)

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>■開会</li> <li>■会議成立の報告</li> <li>■会議の公開・非公開の別 原則として全て公開</li> <li>■会議録の記載方法及び確認・署名 発言要旨を記録、発言者名記載せず、確認・署名は会長に一任</li> <li>■傍聴者の確認（1名）</li> <li>■資料の確認</li> </ul> <p>議題（1）所沢市市民医療センター経営強化プランについて 資料1 所沢市市民医療センター経営強化プラン（案）に基づき説明。</p>
事務局	<p>本年度の医療センターの病床利用率は、令和4年度は56.8%であったが、令和5年度は、1月までで67.4%だった。運営委員会においても病床利用率を高めるようご指摘があり、それを受け向上に努めた結果、一定の成果が出たものと考えている。総務省報告において、50床未満の病床利用率は平均で54%となっており、それと比較しても良い結果となったものと考えているが、まだ十分ではないため、さらに向上に向けた取り組みを推進していく。センター内での経営状況の共有を図るなど意識改革を進め、経営状況の改善に努めていく所存である。</p>
会長	<p>民間病院と比べると低い水準ではあるが、他の公立病院よりは良い数値になってきたということである。</p> <p>昨年10月頃から大きく患者の流れが変わった感覚があり、高齢者救急が急増した。所沢美原総合病院が開院したばかりであるが、220床があつという間に満床となり、その入院患者の転院先が不足しているとのことである。狭山市の埼玉石心会病院も同様の状況である。経営強化プランにおいては、回復期機能として地域包括ケア病床を担うこととしている。地域包括ケア病床の機能は、サブアキュート・ポストアキュートであるため、現在の病床利用率に満足することなく、90%を目指してほしい。</p>
委員	<p>回復期や地域包括ケア病床を主に担うのであれば、急性期の病床を維持する必要はないのではないか。また、診療科について、循環器内科や糖尿病・代謝内科が標榜されているが、入院施設のある循環器内科や糖尿病・代謝内科で外科的処置が行えないということは致命的である。入院してもケアができないのであれば、外来でしっかり診ても入院は他の病院に紹介する必要がある。そういうことも病床利用率が上げられない理由になっているのではないか。機能強化に向けてはそのようなことも考える必要がある。</p>
会長	<p>さらに良くするためにはどうすれば良いかということを考えていただければと思う。今回の診療報酬改定において、外来の生活習慣病加算などかなり厳しい改定内容となっている。当院においても、自身1人の診ている患者数に影響して約1千万円の減収</p>

	<p>が見込まれる。このような診療報酬改定の影響をしっかりと考えなければ、方向性を誤ることになる。国は、急性期を減らして、回復期を増やすこと、中小病院を減らすことを考えている。公立病院であるから、安定した経営ができるというスタンスは今後、さらに通用しなくなると認識いただきたい。所沢市のため、市民のための最後の砦であるという意識をもっていないと、小さな病床を維持することの大義名分が成り立たないことをご理解いただきたい。</p> <p>経営強化プラン(案)については、今までの会議の中で審議しており、原案のとおりとする。</p>
事務局	<p>議題（２）所沢市市民医療センター再整備基本計画について 資料２－１ 所沢市市民医療センター再整備基本計画(案)、資料２－２ 第２回運営委員会からの主な変更点に基づき説明。</p>
会長	<p>建設費について、恐ろしい速度で金額が上がってしまっている。それによって県内の他の医療圏では計画自体を中止せざるを得ない病院も出てきている。国全体としてみても、社会保障費を削減する必要が生じている。病院整備事業などに予算を回すことで、教育など他に回す費用がなくなることになる。それ以上のメリットがあることの説明が求められる。そのために病院は、多くの患者を受け入れることが必要である。</p>
委員	<p>西部医療圏の中で病床数が不足している状況であることを説明されているが、不足しているなら満床を目指すべきである。</p> <p>感染症用の陰圧室をつくるという話があったが、感染症に対応可能な医師や看護師を配置できるのか。そうでなければ宝の持ち腐れとなってしまう。</p> <p>医療センターにおいて、入院設備は作らない方が良く考えている。現在の病床数を他の病院に分配した方が地域包括ケアシステムのためにも良いのではないか。</p> <p>小児科夜間急患診療で、明け方まで経過観察するということを示された点は評価できるが、それ以外は以前と変わらない。コロナ禍以前は、国から再編統合の検討対象として名指しされた病院であったことを考えれば、抜本的な対策を考えることが必要だと思われる。</p>
会長	<p>新センターでは、センター長のリーダーシップのもと、効率的な運用が実現できることに期待している。</p>
委員	<p>内科機能が中途半端な印象がある。現在の診療科構成では、病床利用率があがる見込みがないため、診療科も見直した方が良い。小児診療をやることは良い。オーバーナイトを実施する場合、看護師を外来側に１名、観察側に１名の配置が必要となるのではないか。小児の看護師と成人を対象とする看護師とは異なる。それだけ人員確保が難しくなると思われる。小児科の専門診療科は良い。</p>

会長	<p>看護や診察を行ううえで、小児と大人の違いは確かにある。スタッフ確保の点など、まだ不透明な部分はあるが、実際に動く際には、具体的に検討したうえで進めていただきたい。</p> <p>新センターが良いものになるかについては、最初に決めたことを踏襲するだけでなく、診療報酬改定の動向を反映するなど、柔軟に対応いただきたい。</p> <p>今後、一般病床を維持することは経営的に難しくなると思うが、しっかりと考えていただきたい。</p>
委員	<p>市長が変わったことによる影響はあるか。</p>
事務局	<p>再整備について説明し、計画通り進めていくことの承認を得ている。</p>
会長	<p>新病院建設についてはどのような資金計画になるか。</p>
事務局	<p>企業債を100%充当することができる。また、一般会計からの繰入金については、地方交付税が充当される。</p>
会長	<p>新市長の政策による給食費無償化によって、多額の財源が投入されるが、それにより他の新規事業が中止となることを危惧している。メリハリのある財源の使い方が、これまでよりさらに厳しくなるものと思われる。その中での再整備事業であるため、医療センターの必要性などを理論武装する必要がある。</p>
委員	<p>診療報酬改定を踏まえ、収支シミュレーションの変更が必要ではないか。</p>
事務局	<p>現時点では厳しめに収支シミュレーションを行っている。この先の診療報酬改定の影響を考慮することは難しい状況であるため、想定は行っていない。</p>
委員	<p>今後、修正する考えは持っているか。</p>
事務局	<p>本計画については、このまま進めていく。次年度から設計に着手するなかで、事業費が変わってくる可能性があるため、適宜、収支の見直しや更新、修正も行っていく必要があると考えている。</p>
委員	<p>一般会計からの繰入れについて、給食費無償化による影響はないのか。市の財源で病院事業に回せる金額が減るといったことは想定されるか。</p>
事務局	<p>再整備基本計画（素案）の時点で市長が変わったため、新市長及び財政課に改めて説明を行っているが、このまま進めていくことで合意している。</p>
会長	<p>事業の優先順位は、市長や議会で検討いただくこととなると思われる。また、本基本計画は、これまでの会議の中で我々の目を</p>

	<p>通したものである。意見もいただき、審議も行っているが、内容については、このまま進めていただくこととなる。</p>
委員	<p>再整備基本計画の収支シュミレーションでは、毎年5億円以上繰り入れることになっている。今後、議会でしっかりと検討されて、適正な範囲で済むようになってほしい。</p>
委員	<p>コロナ前は国から廃止すべきという病院であったことを忘れないでいただきたい。その危機感を忘れ、同じように運営していたら同じ結果を招くことになってしまうことを忘れずに進めていただきたい。</p>
委員	<p>市民のための良い医療センターになることを期待している。</p>
委員	<p>365日24時間 小児・成人医療の一次救急医療を担う病院となっていたほしい。それが5億円の血税を投じている意義となると思われる。小児の二次救急が必要な場合には、西埼玉中央病院に送っていただくという役割分担の中で進めていただきたい。</p>
委員	<p>社会福祉協議会は市民の生活を支える立場である。新たな医療センターが市民の安心な生活の拠点となるよう、経営面も含め取り組んでいただきたい。</p>
委員	<p>公的病院の役割の難しさを感じた。市民は建物が新しくなることに夢を持つが、その実現のためには事業費が大きくなってしまいうため、その落としどころが難しいと認識した。公的病院として市民のために作られる病院であるが、働く人の視点も大切にしていきたい。設計の初期段階から働く人達が使いやすい、働きやすい、思い入れのある病院となるようにしていきたい。</p>
委員	<p>現在の病棟の構造で、病床利用率が上がらないという中で職員の皆様が頑張っていると感じている。新病院開院後、しばらくは修繕費用が不要になると思うが、それ以降には修繕費含め費用が必要になるということも見据えて考えていただきたい。</p>
委員	<p>令和10年度に新病院が開院してからもお世話になると思う。受診しやすいよう、アクセスしやすいように進入路や駐車場の作り方などに配慮し、使いやすい病院を作っていただきたい。</p>
委員	<p>医療行為と経営を分離できると良いと感じた。そのための経営のプロがいると良いと思った。子育て世代は給食費無償化の恩恵を受けられることを喜んでいるが、今後、高齢者になる世代が、将来医療を必要とする際のトレードオフになる可能性があることを十分に理解する必要があることが良く分かった。</p>
委員	<p>2年間この会議に参加させていただき、とても良い勉強をさせていただいた。</p>
会長	<p>市として、これをやったらこれができなくなる、トレードオフ</p>

事務局	<p>になる可能性があるということをしかりと示す必要がある。市の総合計画にはやることは示されているが、できなくなることは示されていない。その点も考えていただければと思う。</p> <p>議題（3）その他 これまで運営委員会において議論いただいた、答申書、令和4年度改革プランの点検評価・報告書、経営強化プランについて、市長に提出させていただく。</p> <p>閉会の挨拶</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
-----	--